

(概要版)

小規模の中学校における新しい人間関係を築く力を育成するための研究

—異世代交流学习に視点を当てて—

長期研修員 佐藤 和昭

研究の構想

研究の背景

● 国・群馬県では

- 核家族化・少子化
- 人間関係の希薄化

新学習指導要領

- 家庭・地域との連携
- 交流の必要性

群馬県教育振興基本計画

- 社会を学ぶ体験活動

群馬県学校教育の指針

- 異校種との連携

● 小規模校では

- 人間関係の固定化

新たな社会や集団に適応する能力が不足

多様な考え方に触れる機会が少ない

自分の新たな面を発見しにくい

その他にも様々な課題が考えられます

学校ではどんな交流活動を多く実施しているのかな？



多くの小規模校も同じ課題をもっているのかな？

全国の小規模校(中学校)への実態調査

分析・考察

異世代交流学习プログラム作成

生徒は「自分にもできる・役に立っている」といった実感をもつことができます

充実した異世代との交流学习

教職員は交流学习を通して、生徒の変容した姿を把握することができます

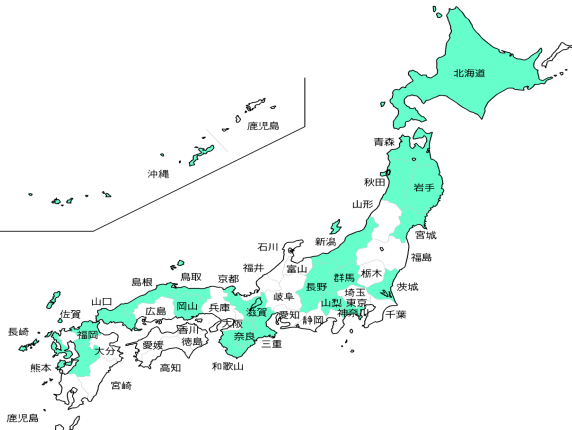
新しい人間関係を築く力の育成

調査について

調査の対象

★全国の公立中学校 119校(群馬県15校)

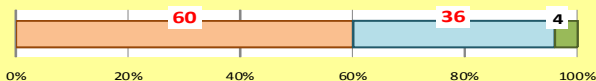
地 方	小規模校数	抽出校数
北海道・東北〔1道4県〕	249	29
関 東 〔3県〕	35	20
北 陸 〔1県〕	28	10
中 部 〔2県〕	28	8
近 畿 〔1府4県〕	79	11
中国・四国 〔4県〕	78	20
九 州 〔4県〕	98	21
計〔1道1府22県〕	595	119



調査の結果

小規模校のよさ

他学年との縦の交流が生まれやすい



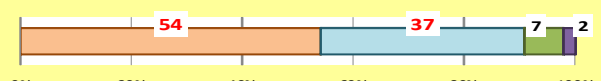
設備・施設の利用時間等の調整が行いやすい



□ 思う □ やや思う □ あまり思わない □ 思わない

小規模校の課題

多様な考え方に触れる機会が少ない



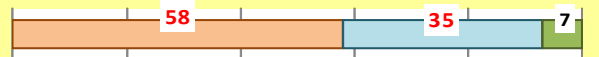
自分の新たな面を発見しにくい



□ 思う □ やや思う □ あまり思わない □ 思わない

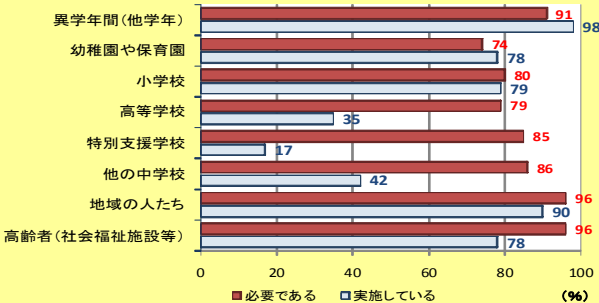
交流活動について

新たな社会や集団へ適応する能力を育成するための交流活動の必要性



□ 思う □ やや思う □ あまり思わない □ 思わない

具体的な交流活動の必要性と実施について



交流活動を通して生徒に期待する変容

	リーダー性	コミュニケーション能力	自己有用感	自己の振り返り	多様な考え方	思いやりの心	校種への理解
異 学 年	○	○	○	○	○	○	○
幼 稚 園	○	○	○	○	○	○	○
小 学 校	○	○	○	○	○	○	○
高 等 学 校	○	○	○	○	○	○	○
特別支援学校	○	○	○	○	○	○	○
他の中学校	○	○	○	○	○	○	○
地域の人たち	○	○	○	○	○	○	○
高 齢 者	○	○	○	○	○	○	○

調査結果から分かったこと(一部抜粋)

- ★新たな社会や集団に適応する能力の育成のために交流活動は効果的な学習である
- ★小規模校の課題解決のために、小規模校のよさを生かして交流活動を積極的に取り入れている学校が多い
- ★教職員の中でも交流活動への期待感や必要性に差が見られる

交流活動を実施する上でのポイント

- ★生徒の発達段階に即し、系統性をもった計画を立てること
- ★自己の振り返り、今後の生活に生かされるような事前学習、交流活動、事後学習を実施すること
- ★教職員は交流活動を通して、生徒の変容した姿を把握すること

異世代交流学習プログラム作成

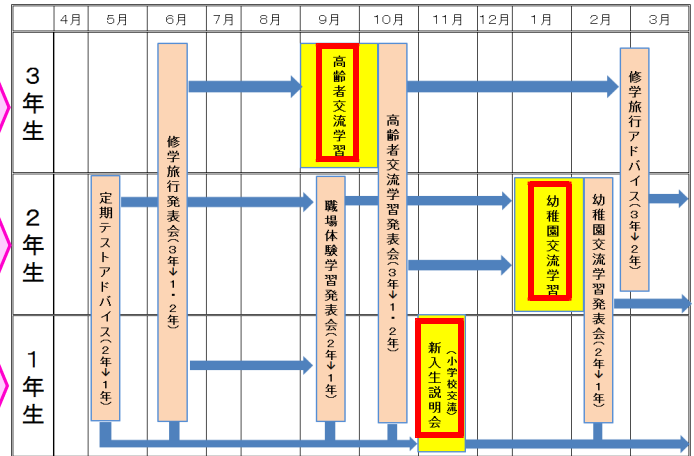
学習プログラム

3年間の系統性をもった交流学習年間計画

高齢者とのコミュニケーションから、互いの違いを理解し、受け入れ、積極的に働きかけるといった必要性について学ぶことができます

自分よりも年下である幼稚園児との交流は、誰もが頼りにされる存在でありたいと積極的にかわり合うことができます

中学校では常に下級生の立場にある1年生が、人の役に立つ体験をすることにより、よき上級生になる自覚をもつことができます



交流学習発表会を通して異学年交流を図ります

- 発表する生徒→個々の活躍の場を増やすことができます
- 発表を聞く生徒→今後実施する交流学習を理解できます

事前→交流→事後の一連の流れを重視した交流学習指導計画

高齢者との交流学習指導計画

(事前5時間、交流活動4時間、事後8時間、計17時間)

※()内の赤字は添付資料

時	生徒の学習内容・活動	教師の支援
3	<ul style="list-style-type: none"> ○「C&S質問紙」の実施 ○高齢者(福祉)について考える <ul style="list-style-type: none"> ◆地区の社会福祉協議会の方の話を聞く <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者(福祉)についての現状を関心をもって聞く ◆疑似体験をする <ul style="list-style-type: none"> ・アイマスクを使用しての視力障害者の疑似体験 ・高齢者体験(階段の上り下りなど) ・車椅子体験(押し方、段差の上り下り) ◆道徳「思いやりの心」の授業で思いやりの心について考える(学習指導案・ワークシート) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「C&S質問紙」の結果から、生徒の実態を把握する ○社会福祉協議会の方の話を聞き、学習への意欲付けを図る ○疑似体験をすることで、高齢者や障害者の気持ちに気付くように助言する ○相手の気持ちや立場を尊重し、思いやりの心をもって、誰に対しても温かく接していこうとする気持ちを高めさせる ○事前に要望書を事業所及び施設に依頼しておく ○生徒が要望書を基に計画を立てるときに助言ができるように、事業所及び施設との連絡調整を十分に取っておく(事業所及び施設では何を望んでいるのか、生徒の受入人数、活動内容の把握など)
前2	<ul style="list-style-type: none"> ○交流する事業所及び施設を確認、決定する ○交流学習の計画と準備をする(要望書・自己紹介カード) ◆事業所及び施設からの要望書を確認する ◆役割分担、体験内容、仕事やマナーについて話し合う ◆自己紹介カードを作成する <ul style="list-style-type: none"> ◆施設及び事業所について調べる <ul style="list-style-type: none"> ・施設を利用している人数・仕事内容・場所、交通手段など ◆交流学習での出し物の練習、思いを伝えられる物の製作を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○役割分担や内容・進め方、お年寄りの方との接し方などの体験の心構えについて話し合わせる ○お年寄りの方と交流するときの自己紹介の言葉や話すことをあらかじめ考えておくようにさせる ○お年寄りの方に感謝と思いやりの気持ちをもって接することができるように配慮させる
当4	<ul style="list-style-type: none"> ○交流学習を行う【場所:各事業所及び施設】 ◆どうすれば楽しく気持ちのよい交流になるか考えながら活動する ◆細かな心遣いをして、感謝をしながら交流を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○お年寄りの方と交流するときの自己紹介の言葉や話すことをあらかじめ考えておくようにさせる ○お年寄りの方に感謝と思いやりの気持ちをもって接することができるように配慮させる ○話ができない生徒には、教師も一緒に会話に入る ○お年寄りの方とかかわりながら作業をするように助言する
後2	<ul style="list-style-type: none"> ○交流学習のまとめをする(交流学習振り返りカード) ◆個々に交流学習の反省と感想を振り返りカードに記入する ◆受入事業所及び施設へのお礼の手紙を作成する ◆各事業所及び施設ごとにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ○交流学習を通して気付いたことや学んだことなどを振り返らせ、内容に深みのあるまとめができるように助言する ○分かったこと、感じたこと、考えたことを話し合わせ、まとめさせる ○個々の振り返りカードや各事業所及び施設ごとにまとめた内容を参考にさせる ○グループで役割を決めて、効率よくまとめられるように計画を立てさせる ○発表のために製作したものが仕上がったら、実際に掲示したり、動かしたりして、見え具合を確認しながら、修正・助言を行う ○話し方・態度など、考えながら練習をさせる ○プログラム作成、司会やあいさつなどの助言を行う
事5	<ul style="list-style-type: none"> ○発表会をする ◆発表会に向けての準備をする <ul style="list-style-type: none"> ・各事業所及び施設ごとに発表会の準備を行う(グループ活動) ・発表方法を考える(ポスターセッションなど) ・交流学習を通して気付いたことや学んだことなどをまとめる ・役割分担を確認する・発表の準備をする(資料の作成) ・発表のシナリオができたなら、実際に話す練習をする ・進行(あいさつ・司会・その他)を決める[学級委員] ◆発表会を行う【各事業所及び施設関係者、1・2年生】 ◆見ている人に分かりやすい発表をする 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後自分たちは何ができるのか、何をしなければならないのかを話し合わせる ○各事業所及び施設からの感想などから「自分は役に立っている」「自分もやればできる」という感情をもたせる(事業所への「交流学習」事後アンケート) ○事前・事後のC&S質問紙の比較とアンケート結果から生徒の変容を見取り、今後の生活に役立たせる
後1	<ul style="list-style-type: none"> ○学習全体を振り返り、今後高齢者とのようにかかわっていったらよいかを考え、話し合う ○「C&S質問紙」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後自分たちは何ができるのか、何をしなければならないのかを話し合わせる ○各事業所及び施設からの感想などから「自分は役に立っている」「自分もやればできる」という感情をもたせる(事業所への「交流学習」事後アンケート) ○事前・事後のC&S質問紙の比較とアンケート結果から生徒の変容を見取り、今後の生活に役立たせる



「高齢者交流学習指導計画」の他に、「幼稚園」「小学校」「特別支援学校」の交流学習指導計画もあります

交流学习を通して、生徒の変容する姿の見取り方



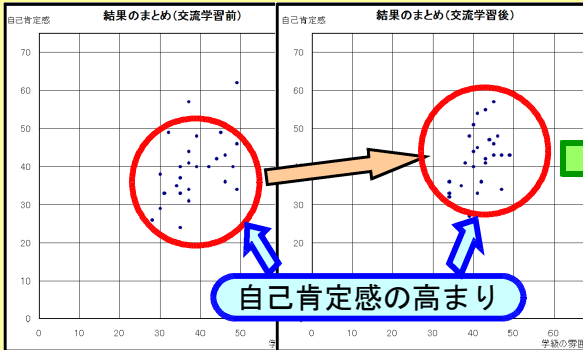
生徒の変容する姿を詳細に見取るために「C&S質問紙による実態把握（ステップ1）」→「アンケート・感想（ステップ2）」の2段階での見取り方を考えました



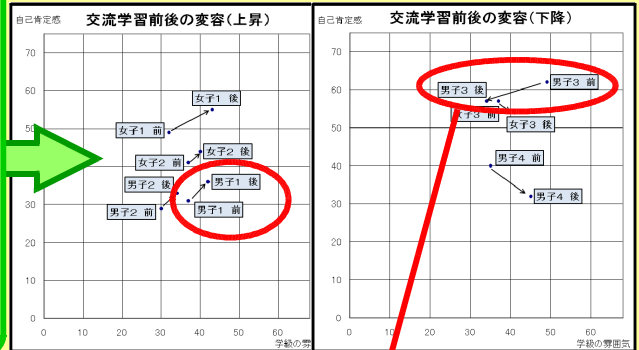
「C&S質問紙」は、平成19年度に田所、村上長期研修員が開発された質問紙であり、自己肯定感の変容を客観的・視覚的に把握することができます

「C&S質問紙」(ステップ1)

学級全体の変容



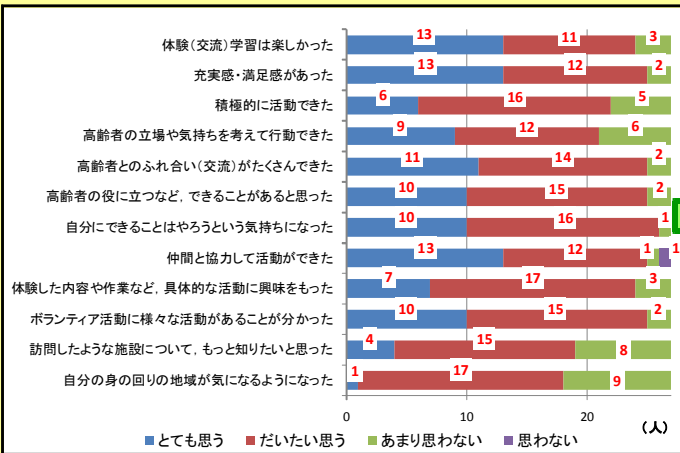
生徒個々の変容



学級全体から個々の変容

「アンケート・感想」(ステップ2)

学級全体の変容



生徒個々の変容

抽出生徒-男子3

○事前アンケートから

- ・「交流学习を楽しみにしていますか」・・・思う
- ・「様々な人との交流(ふれ合い)を期待していますか」・・・思う
- ・「あいさつや言葉づかいの大切さを期待していますか」・・・思う
- ・「仲間と協力して活動することを期待していますか」・・・とても思う

○事後アンケートから

- ・「交流学习は楽しかったですか」・・・とても思う
- ・「充実感・達成感がありましたか」・・・思う
- ・「高齢者とのふれ合いがたくさんできましたか」・・・とても思う
- ・「高齢者の立場や気持ちを考えて行動ができましたか」・・・とても思う
- ・「自分にも高齢者の役に立つなど、できることがあると思いましたが」・・・思う
- ・「仲間と協力して活動することができましたか」・・・まったく思わない

○感想から

僕は認知症の人のお世話をしました。施設を利用する人たちの気持ちを考えることがとても難しかったです。しかし利用者の人たちに「ありがとう」と言われたときは、普段では味わえない喜びを感じることができました。

ここでは自己肯定感が低くなった生徒を抽出しています

研究のまとめ

全国の小規模校(中学校)の調査結果を基にして、異世代交流学习プログラムを作成しました。このプログラムを参考にして、今までの交流学习を見直し実践することにより、交流学习の充実を図ることができ、新しい人間関係を築く力の育成につながると考えます。

今後は実践を通して、本研究では提示できなかった交流を学習プログラムに位置付けるなどの改良を行い、さらに充実した交流学习が展開できるような提案をしていきたいと考える。

問い合わせ先

群馬県総合教育センター
担当係：高校教育研究係

0270-26-9214(直通)